

同窓生シリーズ 75

ばば ひさお
15回生 馬場 悠男



◆プロフィール

東京大学理学部生物学科卒。国立科学博物館人類研究部(研究官・部長)、今は名誉研究員。育った座間市の教育委員。昨年、日本進化学会教育啓蒙賞を受賞。妻1人、娘3人、孫5人。

皆さんこんにちは。私は人類進化の研究をしています。よく、珍しい仕事だねと言われる。どうしてこんな仕事を選んだのか、聞いて下さい。

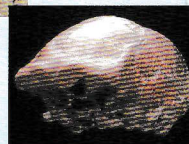
私は1945年1月に新宿で生まれました。戦争中だったので、母は、私をおぶって、焼夷弾の降る中を逃げ回ったそうです。戦後は、神奈川県の田舎で育ちました。鉄腕アトムや少年ケニアの影響で科学や自然に興味を持ち、さらに朝日新聞の「ロンドンー東京五万キロ」で古代文明遺跡を訪ねる現地直送記事をむさぼるように読みました。見知らぬ外国の世界に憧れる純情少年だったのです。

ところが、受験戦争の波に巻き込まれ、田舎っぺの私が、わざわざ世田谷に住所を移し



↑ 1997年ジャワ島での発掘調査。掘り出した土砂はフルイでふるって小さな化石を探す。このときは80万年前の原人の歯の化石が発見された。

私たちの調査により、ジャワ島で2001年に新しく発見された30万年前のジャワ原人頭骨化石。頭の保存はよいが、顔は失われている。↓



て(寄留して)、お坊ちゃん新宿高校に入ったのです。同級生みんなが格好良く見えました。成績は並み、スポーツや音楽で活躍することもなく、女の子にはまるでもてませんでした。

そんな冴えない青春時代を過ごす中で、子供の頃の興味が熟成され、外国での発掘調査に憧れました。人類はいつどこで誕生し、どのように進化して、私たちホモ・サピエンスになったのか、(大それたことに)わからないことの多い学問分野のフロンティアを開拓したいと思ったのです。

それから20余年(六中「五万節」か?)、

研究者としてそれなりの業績は上げても、研究の核心が定まらず、40歳を過ぎてまだ迷いながら、国立科学博物館に移ってきました。ちょうどそのとき、卒業25周年記念の同級会が、250人も参加して新宿の高層ビルの43階で開かれたのです。

久しぶりで会う同級生たちと話してみると、実はその多くが、内心は不安を抱えながら高校時代を過ごし、それぞれの道を見つけ、懸命に生きてきたことがわかりました。その中のひとりが私に「どこに勤めているの?」と聞いたので、湧き上がる秘かな興奮を抑えながら「ほら、見えるだろう、大久保駅の近くに研究施設があるんだ」と指さしました。

新宿に戻ってきたという緊張感と安堵感、そして同級生からもらった力によって、それからはジャワ原人化石の調査研究に打ち込み、なんとか国際的な学術世界に貢献することもできました。そして、博物館員のひとりとして、自分たちの調査研究の成果を博物館展示や出版物あるいはテレビなどで国民に還元できることを幸せに感じています。生まれたときから今まで、私にとって、新宿は、そして新宿高校は、心の古里なんです。